

前期「学校評価アンケート」にご協力をいただきありがとうございました

前期学校評価についてでは、保護者・児童生徒・教職員の回答結果と自由記述でいただいたご意見や学校運営協議会でいただいたご助言を元に、前期の取組について考察をしました。前期は学習活動の制限や保護者参観が実施できない等の状況があり、アンケートでは「わからない」の回答率が増えました。このような状況ではありましたが、お忙しい中ご回答いただき大変感謝をしております。ありがとうございました。

紙面では、結果と分析、学校の取組内容や改善等につきまして記載し、グラフは本校のホームページに掲載します。今回の結果や自由記述でいただいたご意見は全教職員で共有しております。結果を真摯に受け止め、課題改善に向けて取り組んでまいります。今後とも、どうぞよろしくお願ひ致します。

＜前期学校評価のねらいと方法について＞

(1) ねらい

- ◎今年度の学校経営の重点項目に沿って、教職員・保護者・児童生徒に対してアンケート調査を実施することによって、前期の取組に対する達成状況等を明らかにする。
- ◎達成項目や課題項目について、教職員・保護者と情報共有し改善に向けて取組む。

(2) アンケート実施方法

- ◎ 調査対象 : 教職員、保護者、児童生徒
- ◎ 時 期 : 令和3年9月上旬
- ◎ 調査方法 : 各項目について「実現度」を回答
- ◎ 回 答 者 : 教職員・保護者（1家庭に1枚）・児童生徒

(3) 回答率

	保護者（157）	児童生徒（160）	教職員（125）
回答数	124	52	115
回答率	78.9%	32.5%	92%

(4) 本校の学校教育目標とめざす姿

学校教育目標

恵まれた自然環境の中で こころとからだをすこやかに育み
生活の拡がりとつながりをめざして たしかに人とかかわることのできる生きる力をのばす

めざす子ども像

- 生き生きと主体的に活動する子ども ○すこやかでたくましい子ども ○人と自然を大切にする子ども

めざす職員像

- 人権尊重の重要性を深く認識し、人権意識を高めあう職員
- 専門職としての力量と幅広い知識を持ち指導力向上に向けて自己研鑽に励む職員
- 地域及び社会生活とのつながりの中で子どもを教育活動の充実を図る職員

めざす学校像

- 常に子どもを中心に置き、子どもが意欲的、主体的に活動できる学校
- 地域と地域で育つ子どもの姿を見つめ、地域とともに歩み、街づくりに貢献する学校
- 鋭い人権感覚と安心できる信頼関係を基盤に子どもの生きる力を育む学校

＜保護者アンケート結果＞

肯定的回答は、実現度の「よく出来ている」と「大体できている」の回答を合わせた割合（%）を表示し、学部別に掲載しています。（無記入は回答数には含まれていません。）

		肯定的回答			
<項目>		◎学校経営の重点項目	小学部	中学部	高等部
◎児童生徒一人一人にとって安心安全で、意欲の高まる学習環境づくり					
1	学校は、子どもの健康観察を丁寧に行い、健康に留意して学校生活を送れるようによっている	100.0%	100.0%	89.4%	
2	学校は、健康維持や体力づくりに関する取組を十分に行なっている	97.4%	95.2%	91.5%	
3	校内や教室は清掃され衛生的である	59.0%	85.7%	87.2%	
4	学校は、教材や備品の整理整頓、安全・事故防止に配慮している	66.7%	90.5%	80.9%	
5	学校は、避難訓練等を通して安全教育や防災に向けた取組を行なっている	84.2%	90.5%	85.1%	
◎自他の生命を尊び、自尊感情を高め、互いに支えあい、ともに心豊かに生きることを目指す人権教育の推進					
6	学校は、子どもが生き生きと主体的に取り組む行事や授業を行なっている	94.9%	85.7%	80.9%	
7	教職員は、子どもの人権を尊重した言葉づかいや態度で指導・支援をしている	84.6%	100.0%	85.1%	
8	子どもは、友だちや周囲の人を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っている	66.7%	81.0%	78.3%	
◎「個別の包括支援プラン」の活用を進め、児童生徒、教職員、保護者が一体となった「生きる力」を育む教育の充実					
9	保護者として、本校の教育目標や方針、内容を理解している	94.9%	71.4%	85.1%	
10	学校は、子どもが理解しやすいように授業を行い、教材等を工夫している	94.9%	95.2%	84.8%	
11	保護者と学校は、本人の願いや、めざす姿を共有している	97.4%	95.2%	97.9%	
12	「個別の包括支援プラン」には、本人や保護者の願いが反映されている	100.0%	100.0%	97.8%	
13	学校は、ICT機器を使って子どもが意欲的に学べるように取り組んでいる	63.2%	81.0%	80.9%	
14	教職員は、保護者の思いを受け止め、親身に対応している	94.9%	90.5%	91.5%	
◎全ての教育活動を通した規範意識の育成					
15	子どもは、学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	78.4%	85.7%	78.3%	
16	子どもは、自分なりの方法でいさつをしている	82.1%	95.2%	78.3%	
17	子どもは、いじめはしてはいけないことだと学んでいる	41.0%	81.0%	80.0%	
◎校種間連携と交流及び共同学習の推進					
18	園や小・中（学部）学校との引継が確実に行われ、支援が継続されている	87.2%	85.7%	74.5%	
◎小・中・高一貫した計画的組織的な進路指導による適正に応じた進路選択と社会参加の実現					
◎保護者や地域の方々、大学関係者、産業界等の積極的な参画を得た、地域ぐるみ市民ぐるみの学校づくり					
19	学校は、子どもの社会参加の実現に向けた学習や支援、進路学習を行なっている	71.8%	85.7%	87.2%	
20	学校は、学年や学校だより、学校ホームページ等を通して学校の様子を伝えている	97.4%	90.5%	95.7%	

保護者アンケートの結果から

保護者アンケートの実現度の結果は、実現度の高い（90%以上）項目と、低い（60%以下）項目に着色をしました。肯定的回答が80%を超える項目は20項目中、小学部では13項目、中学部では19項目、高等部では17項目あり、学校経営の重点に沿った取組はおおよそ達成できているという結果となりました。しかし肯定的な回答が60%以下の項目が小学部で5項目ありました。

この中で、「わからない」の回答率が30%を超える項目は、3・4・13・17の4項目でした。保護者の自由記述欄には、「授業参観等で学校の様子を見ることができないのでわからない」といったご意見を複数いただきました

①「3 校内や教室は清掃され衛生的である」について、学校では子ども達が下校した後に、毎日教職員によって、清掃・消毒作業を行なっています。教室は机や手すり、床、その日に使用した教具等、その他にも、トイレや校舎の玄関、階段等も、次亜塩素酸水溶液やアルコールで消毒し清潔を保てるようにしています。

②「4 学校は、教材や備品の整理整頓、安全・事故防止に配慮している」について、教材や備品の整理整頓や安全・事故防止に関しては、日々、管理用務員や事務職員、校務支援員等とも連携をとって見回りや修繕、整理整頓を行なっており、教職員全員で気を付けて行うものとしています。また、月1回学校安全日を設け、校内だけでなく、使用している車いす等も安全点検表を元に点検を行ない、整備や清掃に取り組んでいます。これからも、安全・事故防止を未然に防げるよう、教職員全員で協力をして取り組んでまいります。

③「8 子どもは、友だちや周囲の人を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っている」の項目に於いては、保護者と教職員の評価に差がありました。教職員のアンケート項目である「児童生徒が、学習を通して人とつながり、思いやりを持って人と接する態度を育てる指導や支援を行なっている」に於いて、肯定的回答が96.2%でした。学校では、児童生徒への指導や支援に取り組んでいますが、その姿を見て頂いたり、保護者へ具体的に伝えたりすることが十分ではなかったといえます。

④「13 学校は、ICT機器を使って子どもが意欲的に学べるように取り組んでいる」の項目について、小学部では主に個別課題学習時に個々に応じてICTを活用し、自分の思いを発信することやアプリを操作する力を育んでいます。中学部や高等部では、個別課題学習時だけでなく、ライフやワークの授業で異学年とzoom等で繋ぎ、互いに取組を発表したり調べ学習をしたりする等、ICT機器を使って学習を進めてきました。これからも子ども達が意欲的に学べるツールとしてICT機器を使った学習を進めていきます。

⑤「17 子どもは、いじめはしてはいけないことだと学んでいる」の項目に於いて、小学部での肯定的回答が低かった背景には、「わからない」の回答が59.0%ありました。いじめに関する学習は、人権学習の一環として取り組んでいます。例えば、小学部では「友だちの良さや頑張りを知ること」をねらい、友だちの良いところや頑張っていることを伝え合うことや、身体を動かしながら「友だちと仲よく、気持ちよく活動する」という学習を行い、友だちとの関わりを通して、見て・聞いて・触れ合って学んでいます。中学部では、「みんなの良いところを見つけよう」や「相手の立場に立って考えよう」などの学習を行ない、学年全体で活動するということを大切にして取り組んでいます。学習の振り返りでは、「自分がんばったこと」と合わせて、「仲間ががんばっていた姿」にも目を向け、気づきを発表しています。そして、イベントごとにMVPを決め、頑張った友だちを拍手で称え、次は自分も頑張ろうという気持ちを抱けるようにしています。高等部では、「オリジナルゲームを考えよう」や「言葉づかいを考えよう」等の学習に取り組んでいます。みんなが楽しめるゲームを考えて、みんなでゲームをしたり、これまでに言われて嬉しかった言葉や悲しかった言葉を友だちと伝え合い、悲しかった言葉を言い換えるゲームをしたりすることを通して、自分を大切にすることと相手を大切に思う言葉、態度などを学んでいます。学んだことを生活の中ですぐにできるようになることは難しいかもしれません、学びを通して、児童生徒一人一人が自分の行動や相手の思いに気付いたり、どうすればいいかを知ったり、行動できたりすることが大切であると考えます。このような学びを積み重ねて、自分も相手も大切にできる思いや行動する力を培っていきたいと考えています。

児童生徒アンケートの結果から

児童生徒アンケートの実現度の結果は、肯定的回答が80%を超える項目は15項目中、11項目ありました。肯定的な回答が60%以下の項目は1項目あり、否定的な回答が20%を超える項目を合わせると3項目ありました。

①「3 校内や教室の掃除をしている」の項目では、肯定的回答が少し低い結果となりました。日々の学習では、児童生徒はクラススタディやワークスタディ等で教室や校内の清掃に取り組んでいます。学年やユニットによっては、教室の掃き掃除や拭き掃除だけでなく、給食カートをピカピカに磨いたり、校内のクモの巣を取り除いたり、校内の窓ガラスを拭いたりする等、自分でできることを指導者や仲間と共に取り組んでいます。児童生徒は、毎日清掃に取り組むのではなく、週予定の中で取り組んでいるため、このような結果になったのではないかと考えます。

②「13 卒業後の生活について先生から話を聞いたり、自分で考えたりして進路学習をしている」

の項目について、前期、高等部では進路先への見学や実習がほとんど実施できず、生徒自身が実感を抱くことが少なかったのではないかと考えます。しかし、日々のクラスやライフスタディ、ワークスタディ等、学校で行なう教育活動は全てが卒業後の生活に関わる進路学習です。小学部・中学部の児童生徒にとっても、日々の学習の積み重ねが卒業後の生活（進路）につながっています。そのため、児童生徒一人一人が学習のめあてを意識し、1時間の授業の中で、「何を学んだか」「何のために学ぶのか」「何ができるようになったか」等を振り返るように学習を進めていくことが大切だと考えています。

③「15 不安になった時やしんどくなった時など、自分の気持ちを周りの人に伝えることができる」の項目では、肯定的回答が74.5%で否定的回答が23.5%でした。昨年度後期では、否定的回答が9.7%であったため、昨年度より実現度が下がったといえます。回答者や回答者数は昨年度とは異なりますが、実現度が下がった原因を振り返り、改善に向けて取り組む必要があります。教員はこれまで以上に家庭と連携を図り、いち早く児童生徒の変化に気づき対応することが必要だと考えています。児童生徒との信頼関係を高め、児童生徒が自分の気持ちを伝えられるように改善に向けて取り組んでいきます。

教職員アンケートの結果から

教職員アンケートの実現度の結果は、実現度の高い（90%以上）項目と、否定的回答が10%以上の項目に着色をしました。肯定的回答が80%を超える項目は31項目中30項目あり、学校経営の重点に沿った取組はほぼ達成できているという結果となりました。否定的な回答が10%以上の項目は4項目ありました。

①「13 個々の「生きる力」の育成を目指し、児童生徒がICT機器を支援ツールとし意欲的に学べるように取り組んでいる」の項目では、肯定的回答は89.5%で9割近くの教職員はICT機器を支援ツールとして学習に取り組んでいます。学校では、情報教育主任やGIGAスクール推進主任が中心となり校内でICT学習会を実施し教職員が積極的に学んでいます。今年度より一人一台の情報端末が配備され支援ツールとして活用しやすい環境になりました。これからも、児童生徒の個々の目標に応じて、ICT機器を効果的に活用する授業づくりができるよう、多様な活用方法や個々に応じた支援方法について学び、日々の授業に生かしていく取り組んでいきます。

②「19 児童生徒の社会参加の実現に向けた学習や支援、進路指導を行なっている」の項目では、否定的回答が14.0%でした。「進路指導」という文言から、進路先への見学や実習に目を向けてしまいやすく、学部によって項目の捉え方に違いがあったといえます。児童生徒の欄でも記述しましたが、日々の学習が児童生徒の社会参加の実現に向けた学習や支援となり、卒業後の生活に生かせる力を育んでいます。小学部から、基礎・基本の生活学習も大切な学習となります。指導者や教室等の環境が変わっても、仲間と一緒に給食が食べられることも、大切な進路学習の一つだと考えています。

③「20 地域資源を活用した学習を通して、互いに理解し合う取組を進めている」の項目では、前期間は、コロナ禍の為に地域へ出て活動することが難しく、このような結果になったといえます。後期は、緊急事態宣言が解除され、学習活動を少しずつ広げていけるようになりました。感染対策を徹底しながら、地域資源を活用し、人とのつながりを広げた学習にも取り組んでいきます。

④「27 「働き方改革」を意識して、電話対応や閉門時刻を守り、業務の効率化に向けて取り組んでいる」の項目では、否定的回答は11.8%でした。昨年度後期の結果では、「会議の精選や業務の効率化」の項目に於いて、否定的回答が13.6%でした。これからも、業務の効率化を目指し、「働き方改革」を意識して取り組んで行くことが必要であると考えています。

最後に

今年度の校内研究テーマは、「新学習指導要領に照らし合わせた、各部での授業づくり・授業改善」です。今年度より、三ヵ年の計画で取り組んでいきます。今年度は、新学習指導要領に沿ってこれまでの短期目標を見直し、教科の視点を入れた目標の整理に取り組み始めました。校内研究は、各部に於いて「主体的・対話的で深い学び」に焦点を当てた授業づくりに取り組んでいます。児童生徒が「何を学んだか」「何ができるようになったか」「学んだことを生かすことができているか」などを、授業を見ながら振り返り、授業改善に取り組んでいます。

コロナ禍のため、学習活動に制限はありますが、児童生徒が生き生と学校生活を送れるようこれからも教職員が一丸となって取り組んでまいります。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。